

東大和三中だより

令和3年11月1日

11月号 (No. 7)

発行 東大和市立第三中学校
〒207-0016 東大和市仲原2-7
TEL 042-564-5411

第三中学校 開校50周年

副校長 新野 健太郎

東大和市立第三中学校が開校して50年を迎えました。開校は昭和47年4月1日です。先日古い書物を整理していたら、様々な資料が発掘されました。50年前の開校当初の学校の様子の一端をご紹介します。

- ・四十七年三月二十五日 仮設校舎完成。茶畑、麦畑の中に七棟ありと謂えども、排水溝、フェンス完備せず、整地不十分にして降雨泥水校庭に満ち、新生の胎動を感じる。
- ・四十七年四月一日 東大和市立第三中学校として現地に開校。新任教諭三名を含む十八人の教職員は、開拓創造の意気に燃えて、机の移動、校庭の整地に当たる。
- ・四十七年五月一日 校章と校歌を一般公募する。本校教育の目標を具現化し（誠実・親和・自主）、狭山丘陵、多摩湖、茶畑の郷土色豊かで、富士、秩父連邦を含めて、未来への展望をも含むものとする。
- ・四十七年七月十五日 プール完成し、市長、教育長臨席しプール開き。全校水泳競技を行う。天高く、陽光燦たり。
- ・四十七年九月十一日 校章制定。生徒全員の応募の中から、二～五点入選。美術教師を中心として、全教師の意見を盛る。 (すべて原文通り)

筆で書かれた達筆な文字による歯切れのよい文章は、読んでいても心地よく、当時の様子が目に浮かびます。新しくできた学校は、先生も生徒も希望に燃えて、創造の熱気に包まれていたことでしょう。「新生の胎動」という言葉も当時をよく表しています。学校は生きています。産声を上げたその日から、環境に適応しようと一所懸命に動き出します。古い文章からそのことがよく伝わりました。昭和40年代は日本の高度経済成長も終わりを迎え、新たな昭和の時代を迎えていました。人口が急激に増え、人々の生活様式も大きく変わり始めた頃でしょう。その中で、第三中学校は、地域に支えられながら生まれたのです。これからも学校は生き続けます。時代は大きく変化していくことでしょう。開校当時は想像もつかなかった生徒一人1台パソコンの活用。20年後、50年後はさらに予測できない社会と学校の姿があるはず。けれどもそこに第三中学校がある限り、そしてそこに通う生徒がいる限り、開校の精神に描かれた「誠実、親和、自主」は形を変えずに時代を追い求めていくことでしょう。校章に描かれた学校を囲む多摩湖の姿は美しいままに…。



三中日記 ～～～

校内の生け花

ずいぶん前の号になりましたが、校内の生け花のことをご報告しました。実は地域の方が校庭周辺の草花を活けてくださっていたのです。その活動は実に十年以上前からだそうです。コロナ禍で一時活動を中止されていました。先月から活動再開です。地域の方のご協力によって三中は支えられています。ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。



3年生面接練習

先月末から始まっている3年生の三者面談。同時に3年生の個人面接練習も始まっています。校長先生、副校長先生そして学年の先生方と個別に面接をしています。廊下で待つ3年生の、緊張した様子が伝わりますか？「なぜこの進路を希望したのですか？」「将来の職業はどう考えていますか？」など、しっかりとした考えがなければ答えを返せない質問に、3年生は必死に取り組んでいます。緊張した経験がその人を大きく育てます。どうか大いに緊張してください。必ず自分の力になります。がんばれ3年生！



周年記念コーナー設置

校舎1階中央玄関内に、50周年を記念して「周年記念コーナー」を設けました。学校公開ができるようになりましたら是非お立ち寄りください。古い航空写真を見ると、学校の周りは茶畑が広がり、「校庭から富士山が見えた」は本当のようです。現在は校舎3階まで上がらないと富士山は見えません。

